

府中町ふるさと歴史散歩

〔第7回〕

文化財としての地名 ① (地名の重要性)

府中町は古来国府のあった由緒ある所として広く知られている。府中町は広島県の南西部に位置し、広島市に隣接している。広島駅から約4km東にあり、交通の要所として昔から重要な所である。町の形状は北東から南西に長い形をしており、北東から南西に最長5・75km、北西から南東に最大幅2・75kmである。総面積は10・45km²、人口は50,673人(平成12年国勢調査)、人口密度は4,849・1人/km²で広島県下第1位である。町域の東部は北から南に連なる呉^ご姿々^{ささ}宇^う山^{さん}地で急な斜面が多い。西部は低平地が広がる。山地から低平地に移る中央部に丘陵^{きんりやう}地や扇^{せん}状^{じやう}地などの緩斜^{かんしゃ}面^{めん}がみられる。西部の大部

分は古代・中世には海であったと伝えられている。人々は山地の谷間、丘陵地、扇状地の麓^{ふもと}などに住居を構え、集落が発達した。居住地域の地名は地形をはじめとするその地域の自然環境や各時代の生活習慣や政治制度・信仰・歴史などの様子を良く物語っている。

地名は人々が各地に居住し社会生活を営み始めた頃から生活する上で必要なものとして発生した。地名が起こった時期は非常に古いが、その起源を正確に知ることは難しい。地名は長い歴史の間に生まれ引き継がれてきたもので、そこに住む人々の心の故郷である。しかし、時の流れは早く、古い地名が消えて、新しい地名が造られていくのである。

地名は地域を物語る文化財である。現在に生きる私たちは昔の地名を調査・研究し、正確な歴史を学ぶことと、現在の府中町をはじめとして国や世界の様子を後世に伝えることが大切な使命であると思う。

以上のことから、「府中町ふるさと歴史散歩」の中で町内の字名を中心に地名の由来や起源を考えてみたい。昔の地名を発掘し、現在の位置に当てはめることは大変困難な作業で不明なことが多い。皆様のご意見を聞かせていただいて、正しいものを後世に伝えたいと思う。

府中町文化財保護審議会

委員 熊野俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

府中町の航空写真
(平成13年撮影)

